

平成28年度 事業報告書

平成28年6月1日から平成29年5月31日まで

特定非営利活動法人 チャリティーサンタ

1 事業の成果

平成28年度を振り返って

平成28年は熊本地震が起きるなど、改めて大きな「自然災害と子ども達への影響」について考える年となりました。また、「子どもの貧困」という身近に起こりうる子どもたちを取り囲む社会課題について耳にする機会が増えました。

私たちが持つノウハウを活かし、このような子ども達に起こりうる状況に何ができるかを考え、様々な事業展開を行い、多くの支援者と支援対象者をつなぐ一年となりました。

特に大きな動きとしてあった以下3点は特に大きな動きのあったものとなります。

1. 調査事業から見えてきた「クリスマスと子どもの貧困」

クリスマスにおける調査を実施し、サンタクロースを通じて子ども達に働きける可能性を探りました。（『サンタ白書2016』）

調査において、家族で大切にしているイベントとして「子どもの誕生日」に次いで「クリスマス」が2番目という結果（年間行事の中ではクリスマスが最重要イベント）を得ることができた一方で、「クリスマスに何も準備をしていない（プレゼント購入、ケーキを準備等）」という家庭が、全体の3.5%あり、世帯年収が低い家庭ほどその割合が高くなる結果を得ました。また、なんらかの準備をしたくても生活の中で精一杯であるという声も多く届く結果となりました。

これら調査は、メディアにも多く取り上げられ（テレビ1、全国紙2、地方紙14）、大きな反響を得ることができました。この調査結果を基盤に、平成29年度以降「子どもの貧困」についての働きかけを強めていきます。

2. 熊本地震への働きかけ

平成28年は4月に起きた熊本地震を受け、子どもたちを元気付けるために復興支援プロジェクトを実施しました。従来自団体の持つサンタクロースに関わるノウハウを用いて、子ども達に思い出を支援する取り組みを行いました。（サンタクロース訪問事業、サンタクロースからの手紙が届く事業）

ボランティア募集やクラウドファンディングなどを通じ、熊本の子ども達のために何かをしたいという気持ちを行動に移す機会としても大きな成果を得ることができました。

熊本でもボランティアの基盤ができたことを受け、またこの企画を始まりとし、当団体の活動を継続的に行っていきます。

3. 必要とされる福島での「子どもの経験」

前年度におけるチャリティー事業の寄付により、東日本大震災後に外遊びのしづらい福島県の子どもたちを対象に「生きる力を育む」をテーマとしたツアーを継続実施しました。

また前年まで行っていた岡山、山梨に加え、広島県でも実施。対象となる家庭からは「未だにある放射能への不安」や「子ども達の経験」に対しての必要性の声があがっており、風化しつつある東日本大震災に目を向け続ける必要性を感じ、今後も働きかけていきます。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
-----	------	------	------	--------	--------------

チャリティーイベントに関する企画運営事業	クリスマスイブにサンタクロースが訪問するチャリティー企画を運営実施	(準備) 通年 (本番) 12月24日	21都道府県28箇所	約400名	訪問家庭数：1,532件 訪問児童数：4,500名 ボランティア数：1,686名
チャリティーグッズに関する企画運営事業	サンタクロースから手紙が届くチャリティーグッズ販売	(準備) 通年 (実施) 11月～12月	東京都	10名	購入人数：1,891名 (1,100通は熊本の取り組みで、無償提供)
チャリティーグッズに関する企画運営事業	ネパールで作ったフェルトマスコット販売	(準備) 通年 (実施) 11月～12月	東京都	10名	購入人数：約100名
子どもの体験活動支援事業	福島の子ども達を招いての「生きる力」を育むツアーの実施	・岡山：平成28年8月9日～8月14日 ・山梨：平成28年8月14日～17日 ・広島：平成28年8月17日～21日(日)	岡山県、山梨県、広島県	約60名	子どもの参加人数：29名
スタディーツアー事業	実施なし	-	-	-	-
市民の社会参画の機会提供及び推進を図るための企画運営事業	実施なし	-	-	-	-
調査研究、情報収集、情報提供及び啓発事業	クリスマスの実情を調査・まとめた、「サンタ白書」の作成	8月～11月	(アンケート) web上 (白書作成及び取りまとめ) 東京都	15名	白書配布人数：約600名